

第20回最上小国川流域環境保全協議会の概要について

標記の協議会について下記のとおりWEB会議、文書会議を併用して開催しました。

「最上小国川流水型ダム の 状況」「前回の協議会における指導事項と対応」「令和3年度環境影響調査の報告」「ダム供用後モニタリング結果の総括」および「今後の環境調査」について説明し、各委員から活発な御意見をいただきました。その概要は下記のとおりです。

記

- 1 日時 令和4年3月10日(木) 13:30 ~ 15:00
- 2 場所 最上総合支庁
- 3 出席者 13名 (WEB会議6名、文書会議7名)

WEB 会議：原慶明委員長、梅田信委員、本登渉委員、高橋光明委員 (信夫栄代理)、伊藤秀樹委員 (大場君博代理)、後藤精一委員 (佐藤貴之代理)

書類会議：今井正委員、柳原敦委員、横倉明委員、阿部太悦委員、板垣善悦委員、伊藤一雄委員、高橋治委員

4 審議の結果

各委員からの主な御意見 (要旨)

- ・ 梅田委員 **【濁度計測】**
 - ・出水時シミュレーションについては、流量、濁度等の条件の差異を踏まえ、事前検討と実際の状況の比較や整理の方法を再度精査して示してほしい。**【河床状況調査】**
 - ・河床の状況について経年的な変化を確認し、ダム供用後の影響変化について調査をお願いしたい。
- ・ 原委員長 **【魚介類調査】**
 - ・国交省では環境DNAを用いた魚類相調査を導入する方針となっている。今後の当該調査で導入を検討していくことも考えられる。**【全般】**
 - ・令和6年までのモニタリング計画で来年度は中間にあたり、広報などで調査結果を伝えられるとよいのではないか。
- ・ 本登委員 **【魚介類調査】**
 - ・フクドジョウ、カジカの増加傾向は、最上小国川流域に限らず県内全域で傾向がある。魚介類確認種についてこれまでと同じ傾向であり今後も調査を継続する。**【底生動物調査】**
 - ・底生動物確認種についてこれまでと同じ傾向であり今後も調査を継続する。
- ・ 信夫代理 **【濁度計測】**
 - ・事前シミュレーションと比較する程の大雨がきたら、比較結果を説明してもらいたい。**【魚介類調査】**
 - ・漁協でもフクドジョウの捕獲数が増えており、アユやカジカへの影響がないか懸念している。

【開催概況】

